




<p>【教材名】</p>	<p>カレンダーポケット（携帯用カレンダーボックス）</p>
<p>【画像】</p> 	 <p>修学旅行事前学習 修学旅行 バスでの移動中 宿泊施設の自室</p>
<p>【動画記録】</p>	<p>有・無</p>
<p>【対象】（障害の程度・特性）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部～高等部 ・盲ろう児（視覚聴覚二重障害） ・コミュニケーションに触覚の活用が有効な児童生徒
<p>【単元・活用場面】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活全般、宿泊学習等 <p>子供と相談して活動を決めるとき、活動の始まりや終わり、予定を伝えるときなど</p>
<p>【ねらい】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の予定や活動を教師と相談して決めたり、一緒に確認したりして、やり取りをする。 ・次の活動を知ったり、一日の活動に見通しをもったりする。 ・自ら、活動等を確認したり、やることが分かって期待して過ごしたりする。
<p>【導入時の配慮点】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーポケットは、宿泊学習や修学旅行など、宿泊を伴う複数日に渡る活動の際に、携帯し、子供が活動や予定を確認できるようにした物である。 →導入に当たっては、普段の生活の中でオブジェクトキューやカレンダーボックスを使って教師とやり取りをしたり、次の活動や一日の予定を確認したりすることを、子供が理解できていることが前提となる。 ・1日の活動を、縦型のカレンダーポケットに上から下に順に並べている。 ・伝える予定の数、内容は子供の実態に応じて決める。 ・3日間の予定（修学旅行等）の場合は、カレンダーポケットを3つ用意し、左から順に1日目、2日目、3日目と並べておいて本人と確認した。 ・宿泊を伴う活動では、子供がその場所で外泊をするということを理解し、納得してもらう必要がある。そこで、保護者と相談し、自宅で子供が普段寝るときに必ず使う物（お気に入りの枕）を活動当日は、持参してもらった。また、その枕と同じ素材の物で「お泊り」のオブジェクトキューを作成した。
<p>【使い方】</p> 	<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供と一緒に、カレンダーポケットに、活動のオブジェクトキューを入れながら予定を確認する。 <p>※画像のカレンダーポケットは、上から順に、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①朝食（スプーン）、 ②午前中の活動（バスと活動場所のオブジェクトキュー） ③昼食（スプーン） ④午後の活動（バスと活動場所のオブジェクトキュー） ⑤夕食（スプーン） ⑥入浴・就寝（お風呂のタオル、お泊りのオブジェクトキュー）  <p>②午前中の活動「ディズニーランド」のバスケース</p>

	<p>※3日目の⑥は、「家」のオブジェクトキュー)の6つの予定にした。</p> <p>【活動当日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その都度、カレンダーポケットを掛ける場所を決めて子供に伝える。 ※移動のバスの中は座席の横、宿泊先の部屋はベッドの横など。 ・次にする活動のオブジェクトキューを、子供と一緒にカレンダーポケットから取り出して確認する。取り出した活動のオブジェクトキューは子供が自分で持っていたり、子供が分かる場所に置いておいたりした。 ・終わった活動のオブジェクトキューは、一番下の終了箱(移動中は終了袋)と一緒にに入れて、その都度、活動の終わりを確認する。 ・一日の最後には、終了箱に入っているオブジェクトキューを触りながら、活動を振り返ったり、その日のカレンダーポケットが空になったことを触って確認したりした。 <p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーポケットが空になった状態を触らせて、活動が終わったことを伝えたり、終了箱に入っている、取り組んだ活動のオブジェクトキューとその活動で使った物(具体物)などを1つずつ触って、「たのしかったね。」「おいしかったね。」とサインをしながら振り返りをしたりした。宿泊学習や修学旅行で使ったオブジェクトキューは、子供と一緒に専用のアルバムに入れて保管した。
<p>【効果・成果・課題】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と離れて自宅以外の場所で泊まるという経験は、子供によっては、とても不安を伴う。一度の宿泊学習で、自宅以外の場所で家族と離れて宿泊するということを理解したり、納得して安心して取り組むことは難しいと思うが、何年にも渡り、繰り返し経験をしていく中で、子供が見通しをもてるための手立てや、安心して宿泊できるように必要な物などを家族と相談しながら見付けたり、考えて作ったりしていくことが大切である。 ・普段使っているカレンダーボックス、オブジェクトキューなどを使ったやり取りをベースにして携帯用のカレンダーポケット(宿泊用)を取り入れたことで、子供が自分でカレンダーポケットを触って、やりたい活動のオブジェクトキューを取り出したり、予定を確認しようとしたりする姿が見られた。 ・年に一回の学校の宿泊を伴う活動だけでなく、家族旅行の際にもカレンダーポケットや「お泊り」のオブジェクトキューを活用してもらうことで、本人の理解が深まったのではないかと考える。 ・初めて行く場所や初めてする活動のオブジェクトキューは、子供の実態に合わせて、その場所を象徴する物で、本人が現地でも触って確認できる物、事前学習でも使用し、訪れた際に現地でも使う物などを考慮し、場所(活動)のオブジェクトキューを作成した。 ・細かなスケジュールを伝えるためには、ポケット数やオブジェクトキューの数を増やす必要があり、携帯するには不向きになる。子供にとって、どの程度の予定を伝える必要があるか、どのように伝えるかを、別の手段と組み合わせながら、その子供に応じた形を検討する必要がある。
<p>情報提供者問い合わせ先 氏名(学校名)</p>	<p>筑波大学附属久里浜特別支援学校 加藤 敦 *連絡先は研究会事務局までお問い合わせください。</p>